

# 社会資本総合整備計画(市街地整備) 事後評価書

平成 28 年 月 日

計画の名称	1 交流時代をリードするおもてなしのまちづくり																								
計画の期間	平成23年度 ~ 平成26年度 (4年間)			交付対象	小松市																				
計画の目標	平成26年度末に控えた北陸新幹線金沢開業を大交流時代のチャンスと捉え、小松城の城下町としての歴史的地域資源や新たな文化施設による歴史・文化回廊の創出、人々が集い賑わう魅力的な都市機能を集積することで地域コミュニティの活性化を図り、魅力ある地域づくりを継続する。 また、主要施設を公共交通によりネットワーク化を図ることで、生活者や来訪者(観光、ビジネス)の回遊性を高め、『人、モノ、情報、文化』の交流拡大と滞在型観光地の形成を目指す。																								
計画の成果目標(定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通利用者(小松駅+私鉄路線バス利用者:定期外)を1,412千人/年(H23)から1,330千人/年(H26)に減少を留める</li> <li>総観光客数を2,767千人/日(H23)から2,809千人/日(H26)に増加を見込む</li> </ul>																								
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値 (H23当初)</th> <th>中間目標値 (H25末)</th> <th>最終目標値 (H26末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公共交通利用者(小松駅+私鉄路線バス利用者:定期外)を測定する。</td> <td>1,412千人/年</td> <td>1,340千人/年</td> <td>1,330千人/年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総観光客数を調査する。</td> <td>2,767千人/年</td> <td>2,808千人/年</td> <td>2,809千人/年</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								定量的指標の現況値及び目標値			備考	当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H25末)	最終目標値 (H26末)	公共交通利用者(小松駅+私鉄路線バス利用者:定期外)を測定する。	1,412千人/年	1,340千人/年	1,330千人/年		総観光客数を調査する。	2,767千人/年	2,808千人/年	2,809千人/年	
	定量的指標の現況値及び目標値			備考																					
	当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H25末)	最終目標値 (H26末)																						
公共交通利用者(小松駅+私鉄路線バス利用者:定期外)を測定する。	1,412千人/年	1,340千人/年	1,330千人/年																						
総観光客数を調査する。	2,767千人/年	2,808千人/年	2,809千人/年																						
全体事業費	合計 (A+B+C)	3,487.7百万円	A	2,934.8百万円	B	0.0百万円	C	552.9百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)	19.6%															
<b>事後評価</b>																									
○事後評価の実施体制、実施時期																									
事後評価の実施体制					事後評価の実施時期																				
小松市において評価を実施					事業完了後																				
					公表の方法 小松市ホームページで公開																				
2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況																									
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況			<ul style="list-style-type: none"> <li>こまつ曳山交流館みよさの整備により、他の歴史文化施設との連携が図られ、回遊性が高まり利用者の増加につながった。</li> <li>サイン整備、防犯カメラの設置により、公共施設の利用しやすい環境が整った。</li> </ul>																						
II 定量的指標の達成状況		指標(公共交通利用者数)	最終目標値	1,330千人/年	目標値と実績値 に差が出た要因	駅東西に地域の核となる施設が整備されたことや、バスの試験運行の実施とハード、ソフトの両面を整備したことで実績値の増加につながった。																			
			最終実績値	1,619千人/年																					
		指標(総観光客数)	最終目標値	2,809千人/年	目標値と実績値 に差が出た要因	町家の再生や橋のライトアップ、サイン整備といったネットワーク関連の事業が進められてきたことで回遊性が高まり、歴史文化施設の賑わいや、施設の求心力が向上された。また、小松駅東地域交流センターや三日市広場の整備により、市民や観光客が集う場が広がり、新たなイベント等が誘発はれたことで総観光客数の増加につながった。																			
			最終実績値	3,694千人/年																					
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)																									
3. 特記事項(今後の方針等)																									
<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の利用者数などはイベントの有無によって大きく変動することが想定できるため、単発的な利用から持続的な利用につなげていくため、ソフト事業は継続して積極的に実施していくことが重要である。</li> <li>第2期計画で整備された施設で人気の高い「小松駅東地域交流センター」や「子供歌舞伎曳山会館」の利用人数を指標に組み込んでいくことも考えられる。</li> <li>評価値が目標値を満たしていたという表面的な結果だけにとらわれず、近年だけで見ると悪化傾向にある項目はブラッシュアップが必要であるなど、状況を詳細に把握して事業運営することが望ましい。</li> </ul>																									